

令和7年度 第2回 小牧市健康づくり推進審議会 議事録

日 時	令和7年11月19日(水) 14時00分～15時30分			
場 所	小牧市役所東庁舎 大会議室			
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>高野 健市 小牧市医師会会长 三輪 雅一 小牧市医師会副会长 竹内 友康 小牧市歯科医師会会长 堀尾 恭正 小牧市薬剤師会副会长 小島 英嗣 小牧市民病院副院長 寺本 圭輔 愛知教育大学保健体育講座教授 夏目 有紀枝 名古屋経済大学人間生活科学部准教授 澄谷 いづみ 春日井保健所長 佐藤 史洋 小牧市立小中学校長会 土屋 一義 小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会 山田 勇 小牧市老人クラブ連合会副会長 清水 裕子 保健連絡員 加藤 陽子 一般公募市民 中島 早織 一般公募市民 青木 翔太 小牧市社会福祉協議会 総務課係長 林田 賢 市内企業労務担当</p> <p>【事務局】</p> <p>駒瀬 勝利 健康生きがい支え合い推進部長 永井 政栄 健康生きがい支え合い推進部次長 澤田 昌利 保健センター所長 三枝 尚子 保健センター所長補佐 小川 真波 保健センター 母子保健係長 森 里加 保健センター 成人保健係長 吉村 智子 保健センター 予防検診係長 酒向 優 保健センター 成人保健係保健師 奥田 耕作 防災危機管理課長 上岡 賢二 防災危機管理課 防災危機管理係長 小川 浩司 防災危機管理課 防災危機管理係主事補 鈴木 尚紀 健康生きがい推進課長 倉知 佐百合 健康生きがい推進課 健康政策係長 宮田 祐子 健康生きがい推進課 健康政策係主査 前川 桂佑 健康生きがい推進課 健康政策係主事 田中 千月 健康生きがい推進課 健康政策係保健師</p>			
欠席者	1名 北島 宏樹 全国健康保険協会愛知支部			
傍聴者	0名			
配付資料	資料1 小牧市健康づくり推進プランの取組の進捗状況 資料2 小牧市新型インフルエンザ等対策行動計画改定案 資料3 令和7年度健康づくり関連事業について			
1 開会 (1) あいさつ				
2 議題 (1) 小牧市健康づくり推進プランの取組の進捗状況について (資料1により説明)				
高野会長) <ul style="list-style-type: none"> 当初資料1は令和5年度から令和6年度の短期的な実績を晴れマークなどにより示 				

されていたが、令和11年度目標値に対しての進捗を分かりやすくするため、事務局により資料を追加で作成いただき、机上配布されている。

- ・議題（1）について意見をいただきたい。

夏目委員）

- ・①栄養・食生活について、朝食欠食は目標にはまだ遠いが、改善傾向が見られ、肥満傾向の子どもの減少はかなり進んでいる。
- ・学校で行った食育の機会は令和6年度に大幅増加し、学校関係者の努力が反映されているのではないか。
- ・主な取組では、食育専門部会でも共有されているが、講座の実施だけでなく、食育だよりやイベント等の間接的な働きかけも継続していき、効果が出るには時間がかかるため、長期的な継続が重要。
- ・早寝・早起き・朝ご飯の推進で子ども版健康いきいきポイント事業を実施され、お得さをきっかけに習慣化を促し、ポイント還元で継続意欲を高める狙いは健康増進にとって、有効。
- ・健康いきいきポイントの受領者数は年々増え、令和6年度は約4,800人。大人の参加により子どもが興味を持つ可能性もあるので、さまざまな年代に取り組んでもらい、さらなる効果向上を目指せるといい。

高野会長）

- ・健康いきいきポイントについて、夏目委員から意見があつたように、多くの市民に取り組まれているようである。予算も関わってくると思うが、将来に向けて方向性はどのように考えているか。

事務局）

- ・健康いきいきポイントは、健康の取組をされた方に対してポイントを付与し、インセンティブとして、愛知県の健康づくり事業と連携した「まいか」という協力店から優待が受けられるカードとともに、地域限定の商品券を配布している。
- ・この事業は、今後、予算の限りもあるが、継続して進めていく。

佐藤委員）

- ・学校で行った食育の回数について、令和6年度から実績が顕著に伸びているが、栄養教諭により市内の小学校において、授業だけでなく、給食の時間にも食育の指導を積極的に行っている。
- ・その成果として生徒とともに話を聞く各担任も食育について取り組むことが増え、実績につながっているのではないか。

竹内副会長）

- ・②歯の健康の主な取組について、事業名に健診等とあるが、記載されているもの他に、オーラルフレイル健診や口腔がん検診も実施しているので、取組に入れておいていただきたい。

高野会長）

- ・③休養・こころの健康について、ゲートキーパー養成講座受講者数は令和5年度から6年度にかけて微減であり、目標値に達するのかという疑問もあるが、この実績を増やすえで見通しはどうか。

事務局）

- ・こころの健康づくりに欠かせないものの1つとしてゲートキーパーの養成を進めている。市としても受講者増を目指し、講座に関する普及啓発等は事前に行うことで努力をしているが、現状としては受講者を大きく増やすような方策も見つけられて

いない。

- ・ 委員の皆様のお立場からいい方策があれば、ご教示願いたい。

高野会長)

- ・ ゲートキーパーという言葉だけでなく、「みんなにやさしい入門講座」など、参加のハードルを下げるような表現にすることや、小学生が参加できるように工夫してもいいのではないか。

事務局)

- ・ 出前講座のメニューの一つに「やさしい伝え方講座」がある。周知には課題があるので、周知方法のご意見があれば、ご教示願いたい。
- ・ また、ご意見いただいたように子ども向けの企画も含め、今後検討していきたい。

高野会長)

- ・ ④母子保健について、産後ケア事業の利用者実績は順調に伸びている。どのように認識しているか。

事務局)

- ・ 産後ケア事業は、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援をしていくという本市の母子保健の方針のもと、子育て世代包括支援センターが実施している。
- ・ 経済的な事情やお母さんの精神的ケアの支援のニーズが増えているのは現場でも感じるところ。この事業を利用して、少しでもリフレッシュして、子育てをしていただけるように保健センターと子育て世代包括支援センター、また関係部局と一緒に連携しながら支援していきたい。

加藤委員)

- ・ 以前は保健連絡員が行っていた出産後の訪問について、現在は助産師が実施していると聞いている。初めての出産を終えた母親がさまざまな不安を抱えているので、現状のように専門職により実施する方がいい。
- ・ 私の友人でも、その訪問が業務にないから保健連絡員を引き受けたという方もいる。

高野会長)

- ・ ⑤健診・検診受診について、表の実績を見ると、実績は伸び悩んでおり、目標値を達成する笑顔マークは一つもない。
- ・ 厚生労働省が掲げる特定健診の受診率の目標も市と同様に60%だが、一時期はもっと目標は高かったと認識している。
- ・ 検診の現場からすると、新型コロナウイルス感染症の影響で受診率が減って、そこから受診率は低調なままになっている。

山田委員)

- ・ 指標にがん検診の受診率向上とあるが、前立腺がんが入っていない。罹る人が多いがんなので、指標にいれてはどうか。
- ・ また、⑥生活習慣病予防・重症化予防について、喫煙者の年齢別割合は、把握しているか。年齢別の割合により、取組のターゲットも変わるように思う。

事務局)

- ・ 前立腺がんは厚生労働省が受診を推奨する5つのがん検診には入っていないため、指標には入れていない。
- ・ 年代別の喫煙率について、把握できていないので、各年代の喫煙率を確認しながら禁煙を推進していきたい。

高野会長)

- ・ 前立腺がん検診について、指標に組み込まない理由は事務局の説明のとおりだが、

現場の体感としては、前立腺がん検診を受ける人は増加している印象がある。

- ・ ⑥生活習慣病予防・重症化予防について、メタボリックシンドロームは減っている印象はなく、資料の実績としても芳しくない。
- ・ アルコールについても、山田委員の喫煙率に関するご意見のように、年代別のアルコールを飲む人の割合を拾っていただると、将来の資料の活用にもつながるのではないか。

竹内副会長)

- ・ ⑦フレイル対策の75歳以上の咀嚼良好者の割合について、あまり増えてない状況だが、80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという8020運動というのをやっている。その運動の中で、80歳でも20本を保っている人の割合が、かなり増えてきているので、実績も上がっていくと考えている。

土屋委員)

- ・ 社会で支える健康づくりについて、地域の健康チェックで骨密度測定を利用したいが、10月に機械が故障して利用できなかった。今年は機器自体が使えない状況が続いている、予算もなく復旧の見通しは未定とのことで聞いている。
- ・ 2月の地区健康展での骨密度測定の機械が復帰、もしくは新たに購入されるのか、来年度予算での対応になるのか。購入ができないのであれば、リース契約するという手段もあると思う。

事務局)

- ・ 骨密度の測定機器は現在使用できない状態である。予算に限りがあり、また非常に高価であることから新規に購入することも難しく、市で所有することはハードルが高い。
- ・ 本市で包括連携協定の締結先には骨密度の測定機器を所有している企業もあるので、そのような企業と連携しつつ、地域の皆様の活動も支援していくよう工夫していきたい。
- ・ 具体的に機器を使用したい日程も伺ったので、要望に応えられるように努力していく。

加藤委員)

- ・ ウォーキングアプリ alkoについて、6,000歩が目標とされているので、alkoの歩数を見て、6,000歩に達していなければもう少し歩くために外出したりしている。
- ・ ウォーキングのきっかけになるという意味でいい取組だと思う。

(2) 小牧市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について(資料2により説明)

高野会長)

- ・ 本行動計画について、事前に確認し、意見を少し反映していただいている。内容として、新しいインフルエンザなのか、RSウイルスなのかなど、市民には分からぬと思われたため、副題を付けていただいた。

山田委員)

- ・ 資料2付録1にあるように、インフルエンザのウイルスは抗原性の違いによって多くの種類があるが、ワクチンは簡単につくれるものなのか。
- ・ ワクチンの接種費用の補助について、どのような見通しか。

事務局)

- ・ 防災危機管理課では、インフルエンザなどの感染症が発生したときに、小牧市を統

括し、国や県から送られてくるワクチンを調整する部署である。よってワクチンの準備や補助について、回答はいたしかねる。

澁谷委員)

- ・ 本行動計画を改定して、最終的に公表するまでのスケジュールの説明をお願いしたい。
- ・ 資料の説明の中では、県の行動計画に載っていないもの、市に関係あるものを追加したことだったが、国や県から示されたものには治療薬や、医療、検査という項目があった。小牧市の場合、市民病院もあるので、医療もある。治療薬や医療は関係しないので、記載しなかったという認識でよいか。

事務局)

- ・ スケジュールについては、本審議会のご意見を反映した上で、予定では、来年の2月にパブリックコメントを実施、4月ごろに県に提出する。
- ・ 資料2の案については、市町村行動計画作成の手引きや政府行動計画から本市に関係があり、記載が必要な箇所を抜粋して作成している。また、ガイドラインから抜粋している項目は、必ずしも行動計画に記載する必要がないが、記載を検討することが望ましい内容を入れている。
- ・ 治療薬については、県の行動計画では保健医療局による記載となり、市町村に当てはまるところがなかったため記載していない。
- ・ ワクチンの準備期において、防災危機管理課が所有する災害対策用の資機材が該当しているため、記載している。

澁谷委員)

- ・ 小牧市には市民病院があり、また、市の規模で考えると、治療や医療について記載しないことに違和感がある。通常のひな型通りに落とすだけでなく、市にあった部分で何か考えることがあると思い、質問させていただいた。

高野会長)

- ・ 県の発する資料をこちらも承知していないが、パブリックコメントの前に市民の皆様にわかるように周知しておかないと、計画への理解が及ばないのでないか。澁谷委員のご意見のように、小牧市の実情に合わせたものとして、まず国や県の行動計画を示した上で小牧市の行動計画案を示すべきだと思う。
- ・ 物流も実際のところ、小牧市の特性も出てきて、最初の準備期間だけでなく、初期対応など小牧市の特徴があると考えられる。パブリックコメント前に意見を述べた点について、実情に合った形にしていただけるように強く要望させていただく。

2 報告

(1) 令和7年度健康づくり関連事業について（資料3により説明）

- みんなで結ぶ栄養の日 in こまき (P1)
- 令和7年度健康増進普及月間における取組について (P2)

夏目委員)

- ・ 「みんなで結ぶ栄養の日 in こまき」は名古屋経済大学の学生が地域と関わり、幅広い世代の来場を得て学生の人材育成にもつながった。
- ・ このようなイベントは継続していくことが重要だと思うので、今後も今回のように機会を設けさせていただきたいと考えている。
- ・ 来場のきっかけを問うアンケートでLINEやウォーキングアプリ alko のような媒体

が若年層への情報発信に有効と感じた。健診や健康情報の発信にも活用できるのではないか。

3 その他

- ・ 議事録を作成後、皆様に確認いただいたのち公表したい。
- ・ 次回は、令和8年2月18日（水）午後2時から開催予定。

4 閉会